

令和6年度事業報告書

第1 清掃

1 施設

(1) 船舶

船 名	総 屯 数	主 機 関	速 力	乗組員数	集積能力	形 式	備 考
清 港 丸	19.0 t	ディーゼル 345 ^{PS} ×2 基	10.0kt	3 名	20m ³	デイスローター式	名古屋港管理組合 から無償借受け
あ ゆ ち	14.0 t	ディーゼル 130 ^{PS} ×2 基	7.0kt	3 名	12m ³	デイスローター式	
き よ か わ	4.9 t	ディーゼル 112.8 ^{PS} ×1 基	8.5kt	3 名	3m ³	曳舟兼清掃船	
塵芥運搬船	—	無動力	—	—	30m ³	—	

(2) 土地および建物

用 途	所 在 地	土地面積	建物面積	備 考
事務所及び船舶基地	港区作倉町1番95号	984.95 m ²	175.52 m ²	名古屋港管理組合から無償借受け
作 倉 作 業 基 地	港区作倉町101番	991.48 m ²		// (含護岸敷)
中 川 作 業 所	中川運河南幹線11号地以南	159.48 m ²		// (土地)

(3) 起重機

種 別	形 式	設置場所	用 途	備 考
1.0 t	デリッククレーン	中川作業所	塵芥陸揚げ用	名古屋港管理組合から無償借受け
2.8 t	ジブクレーン	作倉作業基地	//	//

2 人員

職 名	副会長兼 常務理事	事務局長	事 務 員	総括船長	船 長	計	備 考
人 数	1名	1名	2名 (※)	1名	2名	7名	※大型漂流物除去等事業と兼務

3 作業内容

(1) 区域別形態

清掃区域	使用船舶	乗組員数	基 地	搬出処理作業	搬 出 先
港 内	清 港 丸	3名	作倉作業基地	可燃ごみは、基地(作業所)に据え付けたクレーンと名古屋市から配車されるトラック、および本会が借り上げたトラックを使用して処理を行う。 可燃ごみ以外の産業廃棄物については、収集運搬・処分を産業廃棄物処理業者に委託する。	名古屋市五条川工場 および 産業廃棄物処理業者が 所有する工場
	あ ゆ ち	3名			
堀 川	き よ か わ (塵芥運搬船)	3名	作倉作業基地 ／ 中川作業所		
新 堀 川					
中川運河	き よ か わ (塵芥運搬船)	3名			

ア 作業予定表に従って、悪天候や土日祝日を除いて毎日、清掃船「清港丸」および「あゆち」による名古屋構内の巡回清掃を実施した。特に、ガーデンふ頭は名古屋港の表玄関として多数の来港者があるため、春から秋にかけて船溜りを重点的に清掃した。

梅雨時期の激しい大雨の影響により、大量のごみが河川を通じて海に流れ込んだ。特に7月のごみ回収量は541㎡に達し、例年を上回る結果となった。さらに、8月26日には台風10号が日本に上陸。上陸後は、勢力を弱めながらもゆっくりとした速度で九州・四国を通過し、東海道沖へ進んだ後、9月1日に熱帯低気圧に変わった。台風の動きが遅かったことから、東三河地域の一部では、総降雨量が600mmを超えるなど、記録的な大雨となった。この台風の影響により、河川を経由して海に流れ込むごみの流入量も増大した。

イ 作業予定表に基づき、清掃船「きよかわ」による堀川、新堀川、および中川運河の適宜清掃を行った。

中川運河については、必要に応じて全域にわたって清掃を実施し、特に松重ポンプ所および中川口ポンプ所付近に汚物や塵芥が集積するため、月平均4回清掃を行った。

また、中川口通船門の閘室を中心に発生した浮遊死魚の処理も実施した。処理実績については、『6ページ(3)浮遊死魚処理』に記載している。

ウ 主な塵芥の種類は、流木(小)、木片、竹、葦、パレット、発泡スチロール、プラスチック容器、ビニール製品、ガラス瓶、ペットボトル、缶、紙屑、および家庭廃品類等がある。

(2) 流出油処理

本会に係る令和6年度の流出油処理件数は0件であった。



▲ 海の清掃船「清港丸」



▲ 川の清掃船「きよかわ」

4 塵芥別処理実績

(1) 清掃区域別処理実績

内訳 月別	内 港		南 部		西 部		堀 川		新 堀 川		中 川 運 河		計		備 考	
	回数	塵芥(m³)	回数	塵芥(m³)	回数	塵芥(m³)	回数	塵芥(m³)	回数	塵芥(m³)	回数	塵芥(m³)	回数	塵芥(m³)		
令和6年	4	21	219.5	4	17.0	0	0.0	13	7.0	2	1.0	4	6.0	44	250.5	
	5	21	38.5	5	8.0	1	1.0	14	7.5	2	1.0	5	5.0	48	61.0	死魚 3,000匹
	6	19	128.5	7	10.5	1	1.0	13	7.0	2	1.0	4	5.0	46	153.0	死魚 40匹
	7	22	522.0	3	6.0	0	0.0	10	7.0	2	1.0	3	5.0	40	541.0	死魚 1,700匹
	8	21	133.0	8	28.5	4	13.0	10	10.5	2	1.0	5	7.0	50	193.0	
	9	19	120.0	5	10.0	2	1.0	12	7.5	2	1.0	4	4.5	44	144.0	死魚 17匹
	10	22	42.0	7	9.5	1	2.0	14	7.5	2	1.0	4	4.0	50	66.0	
	11	19	49.5	15	48.0	1	1.0	11	7.0	2	1.0	5	5.0	53	111.5	
	12	19	28.0	14	26.0	0	0.0	13	6.5	2	1.0	3	3.5	51	65.0	死魚 800匹
令和7年	1	18	19.0	11	16.0	0	0.0	10	5.0	2	1.0	4	4.5	45	45.5	
	2	18	21.5	13	18.0	1	0.5	12	8.5	2	1.0	4	4.0	50	53.5	
	3	20	46.5	16	41.0	2	1.0	12	6.0	2	1.0	4	5.0	56	100.5	
計		239	1,368.0	108	238.5	13	20.5	144	87.0	24	12.0	49	58.5	577	1,784.5	死魚 5,557匹

◆ 年度別実績

内訳 年度別	内 港		南 部		西 部		堀 川		新 堀 川		中 川 運 河		計		備 考
	回数	塵芥(m ³)	回数	塵芥(m ³)	回数	塵芥(m ³)	回数	塵芥(m ³)	回数	塵芥(m ³)	回数	塵芥(m ³)	回数	塵芥(m ³)	
〃 19	277	658.5	145	465.5	7	8.0	117	132.0	5	2.5	16	31.5	567	1,298.0	死魚 129,580匹
〃 20	269	1,348.0	133	529.5	5	12.0	118	120.0	12	6.5	17	41.0	554	2,057.0	死魚 8,020匹
〃 21	256	1,571.2	123	580.5	21	42.0	129	133.5	21	12.5	23	52.0	573	2,391.7	死魚 265,800匹
〃 22	295	1,285.5	144	443.5	39	77.5	174	196.0	18	12.5	23	62.5	693	2,077.5	死魚 679,350匹
〃 23	268	1,513.5	140	694.5	30	67.5	166	153.5	22	13.5	22	51.0	648	2,493.5	死魚 896,900匹
〃 24	277	1,171.5	160	436.5	15	19.0	166	197.5	23	13.0	24	70.5	665	1,908.0	死魚 56,340匹
〃 25	265	1,564.0	95	349.5	19	15.5	159	186.0	17	9.0	24	58.0	579	2,182.0	死魚 254,600匹
〃 26	230	992.5	75	456.0	12	32.5	168	179.5	17	8.5	29	50.5	531	1,719.5	死魚 61,200匹
〃 27	185	572.5	61	225.5	16	21.0	157	137.5	24	13.6	29	45.0	472	1,015.1	死魚 824,480匹
〃 28	212	1,824.0	67	358.5	15	22.5	143	114.5	19	10.0	20	38.5	476	2,368.0	死魚 992,000匹
〃 29	224	2,353.0	91	365.5	17	17.0	104	98.0	15	8.0	44	83.0	495	2,924.5	死魚 1,384,766匹
〃 30	216	1,008.0	92	310.5	33	34.5	147	114.0	13	7.5	49	85.0	550	1,559.5	死魚 180,000匹
令和 元	212	1,127.0	106	310.0	36	31.5	128	95.0	20	10.0	42	72.0	544	1,645.5	死魚 20,700匹
〃 2	215	1,512.0	119	264.5	37	20.0	160	138.0	20	10.5	48	65.5	599	2,010.5	死魚 198,760匹
〃 3	209	1,659.0	117	288.5	56	51.5	135	118.0	21	10.5	41	53.0	579	2,180.5	死魚 25,000匹
〃 4	218	774.0	139	291.5	50	26.5	163	163.0	22	11.5	50	64.0	642	1,330.5	死魚 123,550匹
〃 5	227	943.0	132	325.5	27	62.5	145	78.5	23	12.0	47	51.0	601	1,472.5	死魚 6,800匹
〃 6	239	1,368.0	108	238.5	13	20.5	144	87.0	24	12.0	49	58.5	577	1,784.5	死魚 5,557匹

(2) 河川大清掃

令和6年10月22日から10月30日まで河川大清掃を実施した。実績は以下のとおりである。

◆ 河川大清掃実績表

年月日	種 別	河 川 名	出 動 人 員 お よ び 船 舶			塵 芥	区 間
			清港会	木材業者	船 舶		
6年 10月22日 (火)		堀 川	3人	3人	1隻	0.5 m ³	松重橋 ～ 尾頭橋
10月23日 (水)		〃	3人	—	1隻	0.5 m ³	巾下橋 ～ 松重橋
10月24日 (木)		〃	3人	—	1隻	0.5 m ³	尾頭橋 ～ 瓶屋橋
10月25日 (金)		中川運河	3人	—	1隻	1.0 m ³	堀 止 ～ 中川閘門
10月28日 (月)		新堀川	3人	—	1隻	0.5 m ³	内田橋 ～ 堀 留
10月29日 (火)		堀 川	3人	—	1隻	0.5 m ³	瓶屋橋 ～ 大瀬子橋
10月30日 (水)		〃	3人	—	1隻	0.5 m ³	大瀬子橋 ～ 堀川水門
合 計			21人	3人	7隻	4.0 m ³	

(3) 浮遊死魚処理

浮遊死魚を発見後、清掃船を急行させ、迅速に処理作業を行った。処理実績は次のとおりである。

年月日	種別	作業船舶	人員	処理量	種類	作業時間	場所
6年 5月30日		あゆち	3人	1,000匹	コノシロ	7:30～10:00	堀川 紀左エ門橋～港新橋
〃		きよかわ	3人	2,000匹	コノシロ	12:00～14:00	堀川 きらく橋～白鳥橋、千年堀
6月26日		きよかわ	2人	40匹	ボラ	14:30～14:50	堀川 白鳥橋～瓶屋橋
7月3日		清港丸	2人	500匹	コノシロ	13:30～14:15	堀川 紀左エ門通～堀川水門
〃		そうかい	2人	700匹	コノシロ	10:30～14:30	堀川 大瀬子橋～紀左エ門通
7月4日		清港丸	2人	500匹	コノシロ	13:30～14:30	堀川 紀左エ門通～大瀬子橋
9月20日		きよかわ	2人	17匹	ボラ	12:30～13:30	中川運河 長良橋～中野橋
12月16日		清港丸	2人	300匹	ボラ	13:30～14:30	名古屋港 フェリー、金城北ふ頭
12月17日		清港丸	2人	100匹	ボラ	8:45～ 9:45	名古屋港 北浜、東海元浜ふ頭 (F17)
〃		清港丸	2人	400匹	ボラ	12:30～14:30	名古屋港 金城北、東海元浜ふ頭 (F2)
合計			22人	5,557匹		14時間50分	

5 啓発宣伝活動

- (1) 9月6日(金)、名古屋港管理組合が主催するみなと体験ツアーが開催され、参加者は港務艇「ぼーとおぶなごや2」に乗船し、地域産業や暮らしを支える名古屋港の役割を学びながら港内を見学した。当日は「環境・景観コース」として実施され、港の環境保全活動に焦点を当てた内容が紹介された。港の環境を守る船として「清港丸」が取り上げられ、港の美化や海洋ごみ回収に取り組む姿が紹介されると、参加者の注目を集めた。「ぼーとおぶなごや2」の船内には、実際に「清港丸」が回収した海洋ごみの一部が展示されており、プラスチック製品など多様なごみの現物を目にした参加者からは海洋ごみの深刻な現状に驚きの声が上がっていた。ツアーを通じて、名古屋港の重要性だけでなく、環境問題への理解を深める機会となった。

- (2) 10月22日(火)から30日(水)まで、名古屋港管理組合、名古屋市、および堀川、新堀川、中川運河沿線の木材業者の協力を得て、名古屋水上交通組合と共催で恒例の河川大清掃が実施された。初日には名古屋木材会館で河川大清掃出発式が行われた。

この期間中、船に「港や川をきれいにしましょう」の横断幕を掲げ、堀川、新堀川、中川運河において、港や川の汚染防止を呼びかけた。

- (3) 本会では、小・中学校を対象に海ごみ問題についての出前講座を実施しており、本年度は10月11日(金)に瀬古小学校4年生を対象に、11月13日(水)には豊国中学校1年生を対象にそれぞれ講座を行った。この講座では、清掃活動の現場からの生の声と、海洋ごみが環境に及ぼす影響を伝えることで、子どもたち一人ひとりが当事者意識を持ち、具体的な行動へとつなげてもらうを目的としている。

授業では、海と日本プロジェクトと協力して制作した啓発動画を上映し、続いて、海の生き物たちがごみによってどのような被害を受けているかをクイズ形式で出題。児童・生徒たちは、映像やクイズを通じて、海洋ごみの深刻さや、自分たちが日常生活の中でできる対策について学んだ。

また、実際に海で回収されたプラスチックごみも紹介。波や岸壁により劣化し、手で触れただけで

細かく碎けるようになったプラスチック片を手にした子どもたちは、マイクロプラスチックの問題がいかに深刻であるかを実感していた。

講座中は、ごみの量や種類に関する質問が相次ぎ、子どもたちの関心の高さと、真剣に向き合おうとする姿勢が見て取れた。今後も地域の学校を訪問し、海洋ごみの軽減に向けた啓発活動を行っていく。



▲ ごみに関する質問に答える様子



▲ 昭和中旬頃の堀川について説明している

- (4) 6月14日(金)、名古屋市立東築地小学校の3年生44名が清港会の作業現場に訪れ、「海のそうじ屋さん」を見学した。この見学会は、名古屋市が毎年実施する「環境学習ウィーク・トライ&アクション」の一環として行われたもの。同プログラムは、市内のすべての小・中・特別支援学校を対象に、環境への関心を高めることを目的としている。児童たちは、清掃船が海上に浮かぶごみを回収する様子を間近で見学したほか(写真右)、海洋ごみが船の航行や海の生き物に与える影響について、パネルを使った説明を受けた。(写真左)この見学会は平成19年度に始まり、今年で16回目の開催となる(令和2年と3年は新型コロナウイルスの影響により中止)。清港会による実演と解説を通じ、児童たちは、普段の生活では意識しにくい海洋ごみの問題に直面し、環境保全の大切さを実感した様子だった。



▲ パネルを活用した講義を聞く小学生たち



▲ 迫力溢れる清掃作業に、歓声が湧き上がった

- (5) 前年度に引き続き、8月1日から30日までの約1ヶ月間、名古屋市環境学習センター「エコパルなごや」にて、海洋ごみをメインテーマとしたマンスリー企画展示を実施した。

「マンスリー企画展示」とは、身近な環境から地球規模の課題まで幅広く取り上げ、楽しみながら環境について学べる情報発信の場として、名古屋市環境学習センター「エコパルなごや」にて毎月様々な企画が展示されているもの。

今回の展示では、名古屋港に流れ着くごみがどこから来るのか、また、それが海の生態系や私たちの暮らしにどのような影響を与えるかを、イラストや写真、動画で解説。加えて、清港会が実際に回収した海洋プラスチックごみの実物展示や、清掃船による海や河川の清掃活動の取り組みについても併せて紹介した。

本展示は、海洋ごみ問題の深刻さやその原因、影響、そして清港会の取り組みについて、来場者の理解を深めるものとなった。



▲ 展示室の一角にマンスリー企画展示がある



▲ マイクロプラスチック化したごみの展示

- (6) 9月14日(土)、名古屋市中区の久屋大通公園で開催された「環境デーなごや2024」に8回目の出展を行った。「名古屋港と川をごみから守ろう」をテーマに掲げ、ブースでは海洋ごみが環境に及ぼす影響について、動画やパネルを用いてわかりやすく紹介。また、来場者参加型の環境クイズも実施。正解者には記念品として、海洋プラスチックごみを再利用して製作されたオリジナルボールペン、またはエコバッグが贈られた。いずれも日常的に使用できる実用品で、環境への意識を生活の中で取り入れてもらえればという思いで作成したもの。

当日は240名を超える多くの来場者がブースを訪れ、清港会の活動や環境保全への取り組みに理解と関心を寄せた。



▲ 環境クイズに答える様子



▲ 清港会がデザインしたボールペンとエコバッグ

- (7) 清港会の「あらまし」およびリーフレット「海のおそうじ屋さん」を、各関係機関および一般市民に配布し、環境啓発に努めた。
- (8) 各清掃船に「港や川をきれいにしましょう」というプレートを常時取り付け、港湾利用者らに対して港湾美化を呼びかけた。
- (9) 6月の海洋環境保全推進月間中、南極観測船「ふじ」や船だまりに「港や川をきれいにしましょう」の横断幕を掲げ、啓発活動を行った。また、9月29日(日)に開催された名古屋レガッタに合わせ、中川運河沿いに横断幕を掲げ、港内美化を呼びかけた。
- (10) 名古屋港水族館の南館3階には、海の問題をメインテーマとした「エコ・アクアリウム」が常設展示されている。日本初の水族館での常設の環境教育ルームで、海洋プラスチックごみの生物や海洋環境への影響を中心に、パネルや大型モニタ、顕微鏡を使って分かりやすく解説している。
- この展示の一角で、昨年度に引き続き、清港会の活動が紹介されている。清掃船「清港丸」で実際に回収された海洋プラスチックごみの展示や、清掃活動の様子を収めた動画、パネル展示が行われている。展示場では、マイクロプラスチックのサンプルとその影響を解説する資料も並び、海洋汚染の深刻さと対策の重要性を来場者に訴えている。

第2 大型漂流物除去等

- 1 令和6年度の大型漂流物除去については、昨年度に引き続き、名古屋港管理組合からの委託を受けて実施した。作業は、名古屋港港湾区域内（ただし河川区域を除く）において、悪天候を除きほぼ毎日、作業船により巡回を行い、航行する船舶の障害となる大型漂流物の収集作業を実施した。緊急時には、携帯電話を用いて迅速に対応した。

収集した大型漂流物のうち、流木については新宝ふ頭に設置されている「アバ」に集積し、7月29日および3月26日に陸揚げ作業を実施。その後、十分に乾燥させたうえで、チップ化による処分を行った。

流木以外の大型漂流物については、作倉基地に集積し、適宜、産業廃棄物処理業者に委託して収集運搬および処分を実施した。

家電については、家電リサイクル法に基づき適切に処理を行った。



▲ 新宝ふ頭「アバ」 流木集積



▲ 陸揚げし乾燥後に運搬処分

- 2 主な大型漂流物の種類は、丸太、角材、板、沈廃船（ボート）、ドラム缶、プロパンボンベ、ビニールシート、タイヤ、冷蔵庫、洗濯機、ベッドマット、ふとん、タンス類、自転車、バイク等である。
- 3 本年度は、沈廃船を産業廃棄物として、2隻処理した。



▲ 冷蔵庫などの家電製品



▲ 沈廃船2隻

4 使用船舶

船 名	総 吨 数	主 機 関	速 力	乗組員数	備 考
そ う か い	7.9トン	ディーゼル320PS×1基	15.7ノット	3名	名古屋港管理組合から無償借受け

5 土地

用 途	所 在 地	土 地 面 積	備 考
港内における大型漂流物陸揚げ処理のため	東海市新宝町 25-1	1,390.76 m ²	名古屋港管理組合から無償借受け

6 人員

職 名	事 務 員	船 長	予備船長	計	備 考
人 数	2 名 (※)	1 名	1 名	4 名	※ 清掃事業と兼務

7 大型漂流物陸揚げ処理および沈廃船処理実績

地 区 別	大 型 漂 流 物 陸 揚 げ 処 理		沈 廃 船 処 理
	陸 揚 げ	処 理	
件 数	2 回	2 回	2 隻

8 収集および陸揚げ実績

種 類 月別		丸 太		角 材		板		船 材	木 工 品	工 業 品	そ の 他	陸揚 げ 処 理 量 (t)
		2m 未満	2m 以上	2m 未満	2m 以上	2m 未満	2m 以上	沈船お よび廃 船等	パレット,ベニ ヤ,木片およ び箱等	タイヤ、ドラ ム、プロパン ボンブ等	竹材,ロー プ、ビニール ト、菰等	
R6 年	4	53	25	15	3	19	13	0	138	6	74	
	5	35	22	16	7	16	5	0	68	3	37	
	6	55	54	11	13	8	3	2	183	4	73	
	7	162	297	6	18	6	5	0	454	17	348	6.81
	8	71	61	8	8	7	3	0	129	7	96	
	9	49	46	10	2	5	1	0	103	2	61	
	10	38	33	24	4	9	15	0	64	3	33	
	11	33	15	20	6	7	4	0	68	5	32	
	12	29	10	20	6	5	6	0	38	2	25	
R7 年	1	18	11	21	7	11	5	0	31	5	19	
	2	15	18	8	6	13	0	0	20	1	16	
	3	39	30	19	9	13	7	0	57	2	33	8.22
計		本 597	本 622	本 178	本 89	枚 119	枚 67	隻 2	個 1,353	個 57	個 847	t 15.03

※ 陸揚げ処理量(t)は、新宝ふ頭に設置してある「アバ」内の大型漂流物(流木)を陸揚げし、乾燥後に搬出処分(チップ化)した処理量である。